

第2回「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会

日時：10月20日（木）

午後2時～4時

場所：南薩地域振興局

第2・3会議室

会 次 第

1 開会のあいさつ

2 議 事

(1) 見直しに係る意見について 資料1

(2) 「南薩地域 地域振興の取組方針」（素案）について 資料2 資料3

(3) 意見交換

3 閉 会

「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会委員名簿

所属	役職	氏名
公益社団法人枕崎市医師会	会 長	尾辻 和彦
南薩地区校長協会	副会長	鬼塚 富貴子
一般社団法人鹿児島県 建設業協会加世田支部	支部長	桑畑 昭三
枕崎市漁業協同組合	専務理事	白窪 義広
NPO法人顚娃おこそ会	理事長	中村 浩美
南さつま農業協同組合	理 事	西 明美
南さつま商工会議所	副会頭	西 浩二
公益社団法人指宿市観光協会	理 事	細川 ゆり
南薩地域振興局	局 長	竹内 文紀

「南薩地域 地域振興の取組方針」見直しに係る主な意見

1 誰もが健康でいきいきと活躍できる地域社会づくり

項目	意見内容等
(2) 健康で長生きできる地域社会づくり	1 南薩地域は自殺者が多く周りの方々のフォローが必要
(4) 誰もが安心して必要な医療を受けられる地域づくり	2 高齢化が進む中、地域の民間医療機関と公的医療機関の連携について、行政としてバックアップする体制が必要

3 未来を拓く人づくり、地域を支える人財の確保

項目	意見内容等
(1) 未来を拓く人づくり	ア 学校・家庭・地域が連携・協働する教育の推進
	イ 地域を愛し、地域の発展を牽引する人財の育成
(2) 地域を支える人財の確保	ア 地域産業の振興を支える人財の確保・育成
	イ 地域を愛し、地域の発展を牽引する人財の育成

項目		意見内容等
(2) 地域を支える人財の確保	イ 若年者等の地元就職促進	9 企業訪問をしてほしい。高校生や求職者と企業をつなぐ役割を行政に担ってほしい。 10 高校新卒者に県内就職を勧めたいのなら、まず、保護者から説得すべき。 11 南薩地域は医療機関や介護施設が多いことが特徴。これらの施設の処遇改善が進んでいけば、若者にとっての就労先となり地域定着につながるので、広域的に取り組んだ方がいいのではないか。 12 地元、県内だけでは十分な人材の確保ができないことから、県外に向けた取組も必要 13 一旦県外に出た方に帰ってきてもらうためにも地元にもどのような企業があるかを知ってもらう取組が必要 14 県外に出た若者が就職する際に、南薩地域の情報が発信できていない。ピンポイントで情報発信する取組が必要 15 鹿児島で暮らし働く良さをPRするとともに、住まいに対する公的な補助や、公営住宅の空き部屋を企業に貸し出しするなどの検討をしてほしい。 16 賃金が安ければ地元に戻って来ない。本県の最低賃金を上げるべき。賃上げの努力をした企業に対する補助はできないか。
	ウ 多様な人財が就労できる環境づくり	17 働く意欲のある高齢者のために楽しく働ける環境を整備することが大切 18 障害者が希望する仕事内容を把握している施設の指導員との連携が必要 19 ハローワークのマッチング制度の周知が必要 20 技能実習生の住宅問題への対策として、公営住宅の活用ができないか。

4 地域産業の「稼ぐ力」の向上
 (1) 農林水産業の「稼ぐ力」の向上

項目		意見内容等
ア 人づくり・地域づくりの強化	(7) 農林水産業を支える人材の育成	1 自己資金がなくても農業公社などで技術研修が受けられるようになれば人材も増えるのではないかな。 2 U・Iターン希望者への各市，JAの支援内容の情報提供，農業技術研修会の開催・経営研修（税務含む），初期投資に対する助成措置などの支援が必要 3 若い人の就農を促進するには，農業法人で就業させ，給料を貰いながら技術を習得し，独立させていく仕組みが必要であり，そのための法人化支援が必要 4 労働力を確保する仕組みづくりを地域で検討する必要がある。 5 農産物の販売単価が安い。1円でも高く売るための営業力や経営感覚を磨く必要があり，地域全体で家族経営の底上げを図る必要がある。 6 労働力の確保が課題。外国人技能実習生の受け入れの費用（手数料や前金など）について支援をしてほしい。
	(4) 農山漁村の活性化	7 地域のまとまりが弱くなっていると感じている。地域を活性化するリーダーの育成に力をいれるべき。
イ 生産・加工体制の強化，付加価値の向上	(7) 南薩地域の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり	8 輸入に頼らない自給自足を目指す取組，南の食料供給基地として位置づけられる取組を具体化する必要がある。 9 技術，機械設備，人材の共有等情報交換の場が必要 10 農業を維持するためには，農家が仕事をしやすくなるような取組や補助が必要 11 SDGsの取組の強化や安心安全な農産物のPRの強化が必要 12 飼料や肥料等が高騰しており，国内で調達していかなければならない。作物の転換にも取り組む必要がある。 13 施設の老朽化に伴う不具合等への対応が必要 14 水田の湿田対策や水管理システムの自動化，畑の表土厚の確保対策が必要 15 区画整理や畑かん未整備地域への事業導入が必要

項目		意見内容等
イ 生産・加工体制の強化、付加価値の向上	(7) 南薩地域の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり	16 農業用機械が大型化しているが、南薩地域はほ場の区画が小さく作業効率が悪い。区画が10a未満の農地は借り手もない。10年後を見据え、生産者に負担が生じない形で区画を広げる土地改良事業を実施すべき。(1区画:50a~1ha) 17 スマート農業を推進する上では、1区画1ha程度の広いほ場を整備するための区画整理が必要であり、土地改良事業をしやすい環境をつくっていく必要がある。 18 耕作放棄地は教育現場でも活用することができるのではないか。
	(1) 6次産業化の推進	19 次世代型の新たな食料品開発を支援する研究施設を誘致してほしい。
	(4) ロボット技術、ICT等を活用したスマート農林水産業への挑戦	20 スマート農業の先進事例に関する情報を横展開する必要がある。 21 スマート農業機械を広域的に活用する必要がある。
	(4) 農林水産業における災害の防止等	22 豪雨発生に対応する排水路の大型化が必要
ウ 販路拡大・輸出拡大	(7) 国内市場のニーズに対応した農林水産物の販売対策と利用促進	23 良いものを作っても農産物の価値が伝わっておらず、儲かっていない現状がある。売れる農産物を作ること、ふるさと納税など新たな販売形態を開拓し、付加価値を付け、消費者にしっかりと伝えていくことが重要 24 地域で一次加工(野菜等の乾燥・冷凍等)に取り組む体制づくりが必要 25 子どもの親世代(20~30代)への食育の支援、農業のファンづくりが必要 26 米飯給食は週に3~4回に増えているが、これまで以上に米消費対策を講じてほしい。
	(4) 県産材の利用促進と供給体制強化及び特産林産物の産地づくり	27 人材不足に対応するための機械化(ICT技術)の導入の検討が必要 28 生産規模拡大には、ほ場整備と機械化が必要 29 輸出については、原木ではなく製品に加工し付加価値を付けて輸出する取組が必要
	(1) 「攻めの農林水産業」の実現に向けた輸出拡大	30 輸出に向けた栽培研修・輸出業者との仲介が必要 31 域内の農林水産物を枕崎港から輸出する需要はないかリサーチが必要

(2) 観光の「稼ぐ力」の向上

項目	意見内容等
ア 広域連携による滞在型観光の推進	1 薩摩半島の先端にある各資源を生かした観光施策を考えるべき。 2 観光客は特定の市ではなく、南薩地域を観光しようとするのではないかと。南薩単位で官民連携の観光戦略チームを作るべき。 3 指宿市での宿泊を核として4市で周遊ルートをつくっていかないと「稼ぐ力」には繋がらない。公共交通機関も併用した自転車観光、車での観光など、それぞれの交通手段に分けた4市の観光ルートをつくってもいいかと思う。 4 指宿市を拠点とし、種子屋久まで含んだ周遊を推進すべき。 5 サイクリングロードの整備など南薩が一体となった観光の取組を進めてほしい。 6 J Rの利用促進のためには、鉄道ファンへのヒアリングが重要である。彼らは何を求めているのかを具体的に知ること、列車そのものの訴求力を高めることができる。 7 サイクルトレインが実現すればJ Rの利用促進につながる。 8 J Rを往復利用するのではなく、帰りはバスを使って南薩縦貫道などを走るという行程の方が取り組みやすいのではないかと。 9 薩南海岸県立自然公園とJ Rが並行しているので、レンタサイクルと列車を絡めた観光コースの作成や、周辺の観光施設において地域の知識を共有するなどして、広域で一体感と統一感を持ったイメージでお客様をお迎えすることが必要 10 観光ガイドに対して適正な価格を支払っていかないと後継者がいなくなる。 11 観光業従事者に対する定期的なマナー研修等が必要 12 レンタサイクルを南薩地域で統一できないか（指宿市で借りて南九州市で返せるような仕組み）。
イ 観光拠点づくりの推進	13 体験メニューを拡充し、どう売り出すか検討が必要 14 農業と観光のマッチングができればよい。
ウ デジタルを活用したマーケティングや情報発信の展開	15 南薩の観光が目指す未来のビジョンを明らかにし、観光関連企業・団体で共有することが重要 16 南薩地域でどのようなことが求められているのか、南薩地域としてどのようなイメージで売り込むのかを地域全体で整理することが必要 17 都市圏でどのような需要があるかなどの情報収集が必要 18 地域外から来る方が何を望んでいるかをしっかり把握し、SNSで発信すれば、観光客の増加や移住の実現につながるのではないかと。 19 情報発信は手段より内容が重要。発信する情報の価値を読み手の心を動かすような内容で伝えることが行政はできていない。 20 地域の特性や、そこに行かないと見られないこと、できないことを発信する必要がある。 21 県外に出て初めて地元の魅力に気づくことも多いので、外から見た地元の魅力を発信してもらうことも大切 22 広域での連携は必須。南薩4市で常に情報共有しながら、一緒に実施、PRしていくべき。

(3) 企業の「稼ぐ力」の向上

項目	意見内容等
ア 将来を担う新たな産業の創出	1 起業の地として選ばれるためには、他にない独自色のある取組が必要 2 南薩地域では仕事の選択肢が少なすぎるので、地域で仕事を興すことを支援する取組が必要
イ 生産性と付加価値の向上による産業競争力の強化	3 経費は上がっているが価格に反映されていない。コストを上乗せして適正な価格で販売し稼ぐ力を向上させ、可処分所得を引き上げる必要がある。そのためには、情報発信や商品力も必要 4 地域課題の解決に向けて企業が共同して製品を開発するためには県の誘導が必要 5 デジタル化を促進するためには、デジタル化を行った同業者の情報を発信し、効率化が図れるというイメージを持たせることが必要 6 就労者の高齢化が進む中で、誰でも同じ仕事ができるようにデジタル化を進める必要がある。 7 デジタル化について地域内に相談できる場があればよい。
エ 県産品の国内外マーケットへの戦略的な展開	8 新商品の開発を提案する人と技術者をマッチングする取組が必要

5 安全・安心・快適に暮らせる地域づくり

項目	意見内容等
(1) 豊かな自然と共生できる脱炭素社会の実現	ア 脱炭素に向けた地域づくり 1 脱炭素やSDGsについては、親世代への教育が必要
	イ 環境負荷が低減される循環型社会の形成 2 高齢者のゴミ出し支援が必要
(2) 強靱な県土づくりと危機管理体制の強化	ア 自助・共助・公助による地域防災力の強化 3 大規模災害時には枕崎港やヘリポートから救援物資の輸送ができる。医薬品も含めて総合的な備蓄を考えてはどうか。
	イ 防災・減災対策の推進による安心・安全な地域づくり 4 薩摩半島の高校に土木科をつくってほしい。災害対応のためにも技術の継承は重要
(4) 快適な生活環境づくり	ア 人やモノの交流を支える交通ネットワークの形成 5 薩摩半島横断道路の早期着工を行い、主要幹線道路や生活幹線道路のネットワークを強化することにより、交流人口の増、円滑な物流の促進が図られる。 6 鹿児島市内の大学進学による転出を防ぐためには、公共交通機関の確保が重要であり、維持も含め、県が主体となって広域的に取り組むことができないか。

項目		意見内容等
(4) 快適な生活環境づくり	イ JR指宿枕崎線の利用促進	7 路線の存続だけを目標にするのではなく、地域づくりの中で路線を活かすという観点で進めていくべきである。 8 JR指宿枕崎線は、トロッコ列車の運行や中学生の通学利用など工夫を凝らし、利用者を増やさなければならない。
(5) 地域特性を生かした持続可能な地域社会づくり		9 景観や防災上の面からも空き家対策が必要 10 空き家の再生にはスピードが大事で、手をこまねいているうちにすぐに再生できないレベルに朽ちてしまう。 11 若者にとって魅力的な地域づくりをするためには、若者の意見を取り入れ、とりあえずやらせてみるという体制が必要 12 若者と高齢者が分かれている気がする。両者が一緒になって活動していければよい。 13 地域の人や団体に惹かれて移住する人も多く、移住の決め手として、人とのつながりがあるということも大きいため、地域の人にフォーカスしたPRも必要 14 南薩地域は各市で地域の特徴が異なっていることを生かして、短期間のお試し移住を地域でシリーズ化するなど、移住のハードルを下げる取組が必要ではないか。 15 移住・定住のためには仕事と住まいが大切である。仕事についてはマッチングを間違えなければうまく誘導できると思う。住まいについては空き家・空き店舗を活用できれば空き家対策にもなるが実際は難しい。仕事と住まいをセットにして支援するスキームがあればありがたい。 16 地域おこし協力隊がしっかりと活動できる環境を整える必要がある。 17 地域団体に、地域おこし協力隊の活用の仕方をもっと知ってもらう取組に加え、地域おこし協力隊を活用した運営についての包括的なサポート体制を作ることも重要

「南薩地域 地域振興の取組方針」の見直し方針(骨子案)

「南薩地域 地域振興の取組方針」改訂版(令和4年度改訂予定)

○ 位置づけ

かごしま未来創造ビジョン(以下「ビジョン」という。)を補完し、ビジョンに沿って、それぞれの地域における特有の課題や施策展開の基本方向などを示すもの

第1章 改訂の趣旨

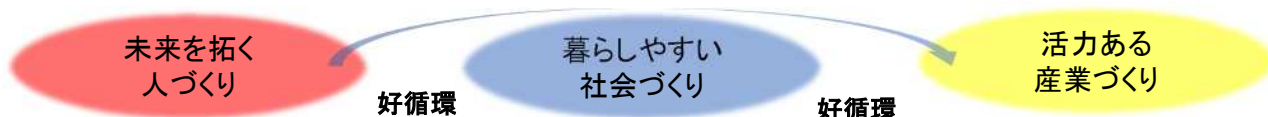
現行の取組方針の策定後、社会経済情勢が大きく変化し、これらへの対応が必要になってきたことから、改訂後のビジョンに沿って見直しを行うもの

第2章 時代の潮流と南薩地域の現状・課題

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 人口減少・少子高齢化の進行 | 5 健康課題への対応 |
| 2 南薩地域の経済の現状 | 6 デジタル化への対応 |
| 3 教育・子育て環境の変化への対応 | 7 環境問題への対応 |
| 4 価値観・ライフスタイルの変化と地方回帰への取組 | 8 地域の社会資本整備と防災・減災対策 |

第3章 南薩地域の目指す姿

「誰もが安心して暮らし、活躍できる南薩地域」



第4章 南薩地域振興の取組方針

- | | |
|--|---|
| <p>1 誰もが健康でいきいきと活躍できる地域社会づくり</p> <p>1 誰もが個性と能力を発揮し活躍できる社会の実現</p> <p>3 健康で長生きできる社会の実現と良質な医療・介護の確保</p> <p>4 地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興</p> | <p>4 地域産業の「稼ぐ力」の向上</p> <p>8 個性を生かした地域づくりと移住・交流の促進</p> <p>10 農林水産業の「稼ぐ力」の向上</p> <p>11 観光の「稼ぐ力」の向上</p> <p>12 企業の「稼ぐ力」の向上</p> <p>14 デジタルテクノロジーを活用した県民の暮らしの質の向上</p> |
| <p>2 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう地域社会づくり</p> <p>2 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう社会の実現</p> | <p>5 安全・安心・快適に暮らせる地域づくり</p> <p>5 脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生</p> <p>6 安心・安全な県民生活の実現</p> <p>7 快適な生活環境の向上と世界につながる県土の創造</p> <p>8 個性を生かした地域づくりと移住・交流の促進</p> |
| <p>3 未来を拓く人づくり、地域を支える人財の確保</p> <p>4 地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興</p> <p>12 企業の「稼ぐ力」の向上</p> <p>13 多様なキャリアをデザインできる働き方の創出</p> | |
- ※()はビジョンの項目

第5章 取組方針実現のために

- 1 県民が主役 2 多様な主体との連携・協働 3 管内4市との連携 4 管外の地域との広域連携
5 具体的な施策・事業等の推進 6 SDGsの推進

県民意見の反映

各地域の課題を十分に踏まえた上で策定するため、地域の有識者・県議や各分野で活躍する県民、管内4市等の意見を聞きながら策定

南薩地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉

【素案】



令和 5 年 3 月
鹿児島県南薩地域振興局

目 次

第1章 改訂の趣旨	1
第2章 時代の潮流と南薩地域の現状・課題	2
1 人口減少・少子高齢化の進行	2
2 南薩地域の経済の現状	3
3 教育・子育て環境の変化への対応	5
4 価値観・ライフスタイルの変化と地方回帰への取組	5
5 健康課題への対応	6
6 デジタル化への対応	7
7 環境問題への対応	7
8 地域の社会資本整備と防災・減災対策	8
第3章 南薩地域の目指す姿	9
第4章 南薩地域振興の取組方針	10
1 誰もが健康でいきいきと活躍できる地域社会づくり	10
2 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう地域社会づくり	12
3 未来を拓く人づくり、地域を支える人財の確保	13
4 地域産業の「稼ぐ力」の向上	16
5 安全・安心・快適に暮らせる地域づくり	26
第5章 取組方針実現のために	33

第1章 改訂の趣旨

「南薩地域 地域振興の取組方針」は、平成30年3月に策定された「かごしま未来創造ビジョン」を補完し、南薩地域における特有の課題を踏まえ施策展開の基本方向等を示すものとして、平成31年3月に策定したものです。

その後、人口減少・少子高齢化などの従来からの課題に加え、新型コロナウイルス感染症拡大により、デジタル化・オンライン化の遅れなど新たに様々な課題が浮き彫りになりました。また、地域における暮らしの豊かさに改めて注目が集まるとともに、世界の持続可能性を見据えるSDGsや温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルの考え方も一層重要性を増すなど、社会情勢が大きく変化しており、これらへの対応が重要になったことから、令和4年3月に「かごしま未来創造ビジョン」の改訂がなされました。

「南薩地域 地域振興の取組方針」についても、「かごしま未来創造ビジョン」の改訂やそこに至る社会情勢の変化等を踏まえ見直しを行うこととし、見直しに当たっては、地域における課題や必要とされる取組を的確に把握するため、有識者会議を開催し御意見をいただいたほか、県議会議員、現場の最前線で御活躍されている方や事業所、地域経済を支える関係団体、各市等と意見交換を行いました。

意見交換の中で、人口減少・少子高齢化の進行により、地域における人材不足は一層深刻化しており、産業活動や地域のコミュニティ機能の維持等に影響を及ぼしている現状が顕在化しました。一方で、地域資源を活用し活力のある地域づくりを行う団体の取組や、IoTやICTなどの先端技術の導入による生産性向上に向けた企業や農業者の取組など、それぞれの立場で課題の解決に向けた積極的な取組が見られました。

直面する課題に県民一丸となって取り組むためにも、南薩地域の現状を踏まえ、地域課題や取り組むべきテーマを明確にし、体系的に整理した上で、概ね10年という中長期的観点から、南薩地域のあるべき姿や特に力を入れて取り組むべき施策の方向性を県民の皆様に分かりやすく示すことが大切であり、今般、取組方針の見直しを行いました。

施策展開の基本方向

かごしま未来創造ビジョン	南薩地域 地域振興の取組方針
1 誰もが個性と能力を発揮し活躍できる社会の実現	1 誰もが健康でいきいきと活躍できる地域社会づくり
2 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう社会の実現	2 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう地域社会づくり
3 健康で長生きできる社会の実現と良質な医療・介護の確保	3 未来を拓く人づくり、地域を支える人財の確保
4 地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興	4 地域産業の「稼ぐ力」の向上
5 脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生	5 安全・安心・快適に暮らせる地域づくり
6 安心・安全な県民生活の実現	
7 快適な生活環境の向上と世界につながる県土の創造	
8 個性を生かした地域づくりと移住・交流の促進	
9 多様で魅力ある奄美・離島の振興	
10 農林水産業の「稼ぐ力」の向上	
11 観光の「稼ぐ力」の向上	
12 企業の「稼ぐ力」の向上	
13 多彩なキャリアをデザインできる働き方の創出	
14 デジタルテクノロジーを活用した県民の暮らしの質の向上	
15 持続可能な行財政運営	

第2章 時代の潮流と南薩地域の現状・課題

1 人口減少・少子高齢化の進行

国勢調査結果によると、南薩地域の人口は、1950年の274,330人をピークに年々減少し、2020年はピーク時の約46%の125,011人となっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、管内の人口減少は今後更に進行し、2045年には約49,000人減少し、現在の人口の約6割の76,000人余りになると推計されており（図1）、減少率は県下の地域別で最も高くなっています。

また、出生率（人口1,000人に対する出生数の割合）についても、人口減少や若い世代の人口が少ないこと等により減少傾向にあり、2020年は5.6で県平均を1.8ポイント下回っています（図2）。

さらに、高齢化率は年々上昇しており、2020年は40.1%と県下の地域別で最も高く、将来推計でも更に上昇し、2045年には46.2%になると見込まれています（図3）。

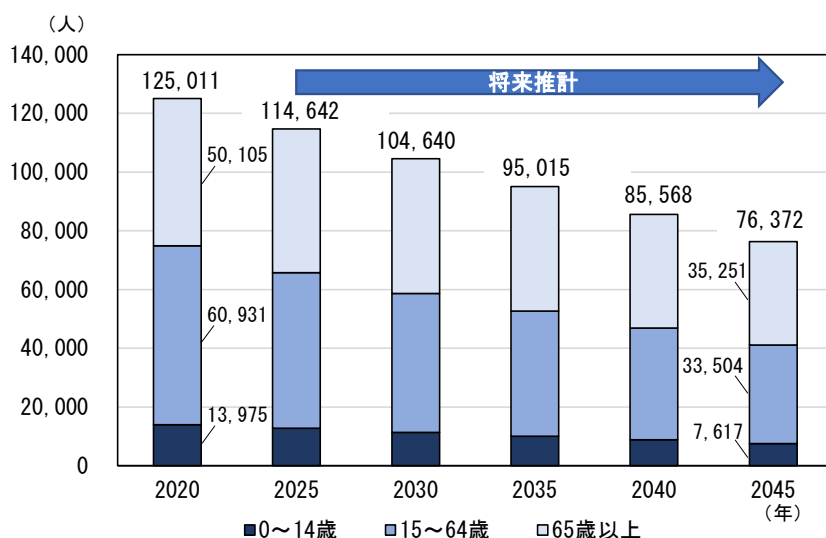
南薩地域はこのように、県内で最も急激に人口減少が進み、将来にわたって高齢化が進行する地域と見込まれています。

少子高齢化により、人口に占める生産年齢（15歳～64歳）人口の割合は48.7%となっており、県下の地域別で最も低く、あらゆる分野で人材不足が深刻化しています。若者にとって魅力的な仕事や暮らしやすい地域をつくり、若者等の地域内定着と大都市圏等からのUターンを更に促進する必要があります。

人口減少や少子高齢化の進行により、地域コミュニティ機能の低下、農地や森林の荒廃、野生鳥獣による農作物被害の増加、貴重な地域文化の保存・継承が困難になってきているなど、地域における課題は多様化・複雑化しています。行政だけでなく、地域コミュニティやNPO、企業等の多様な主体によって、地域に必要なサービスの提供や地域課題解決に向けて取り組むことが必要です。

高齢化の進行に対しては、高齢者が健やかで生きがいを持てる地域づくりや住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられる地域包括ケア^{*1}を推進する必要があります。

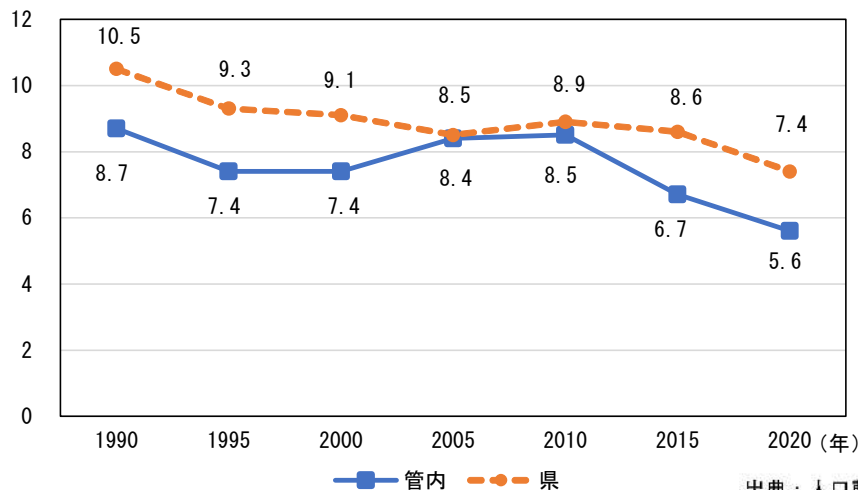
【図1】年齢3区分別将来推計人口



出典：2020年の人口 国勢調査〔総務省〕
その他の年の推計人口 日本の地域別将来推計人口(2018年推計)
〔国立社会保障・人口問題研究所〕

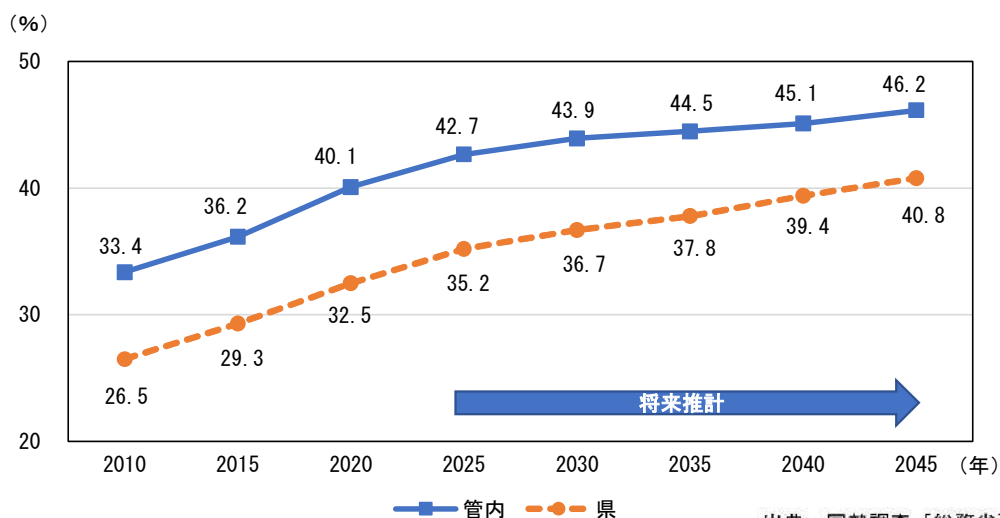
*1…地域包括ケア：地域の実情に応じて、高齢者等が可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保されること

【図2】出生率の推移（人口千対）



出典：人口動態統計〔厚生労働省〕
県衛生統計年報〔県保健医療福祉課〕

【図3】高齢化率の推移と将来予測



出典：国勢調査〔総務省〕
2025年以降は日本の地域別将来
推計人口（2018年推計）から試算

2 南薩地域の経済の現状

南薩地域の産業構造は、産業別就業人口及び総生産額ともに、県全体と比べ第1次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低いことが特徴です（図4・5）。第1次産業においては、農業産出額は県全体の約15%を占めています（図6）。

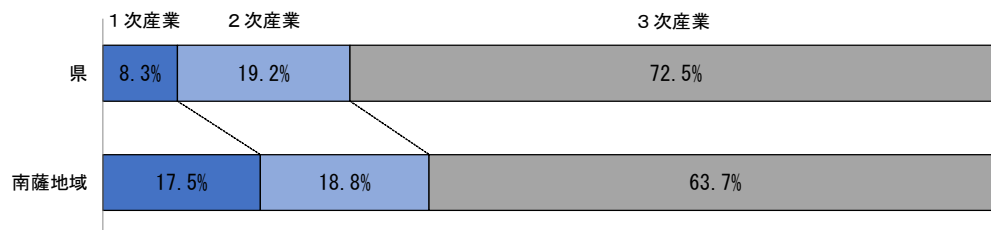
地域産業においては、人材の確保と育成が喫緊の課題になっています。

南薩地域の高校新卒者の県内就職率は近年低下傾向にあり（図7）、企業等においては、良好で魅力的な雇用環境を整備し、それを積極的に情報発信することで人材の確保を図る必要があります。また、農林水産業においては、意欲のある新規就業者や農業法人、集落営農など多様な形態の担い手の確保・育成が必要です。

南薩地域の一人当たり市民所得は、県平均の約9割となっており、2019年度は2,307千円となっています。

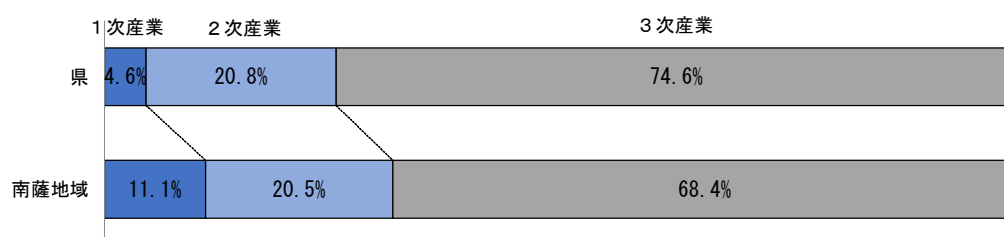
地域の基幹産業である農林水産業や観光関連産業の更なる振興を図るとともに、高い技術力を有する製造業の競争力の強化や将来を担う新たな産業の創出に取り組み、経済を持続的に発展させることで、「稼ぐ力」を向上させ、県民所得の向上を図る必要があります。

【図4】産業別就業者構成比



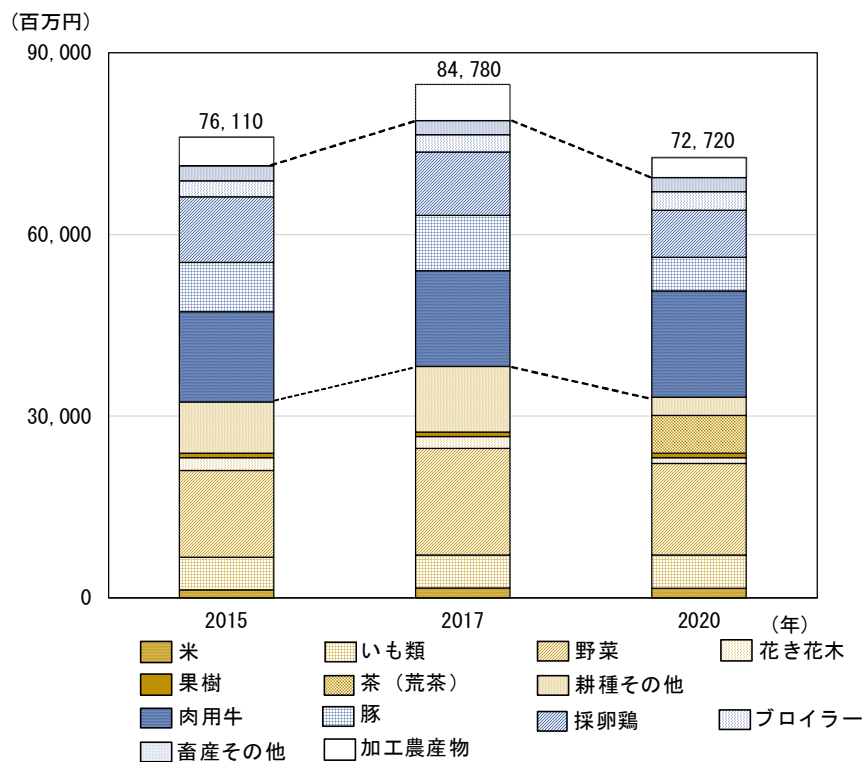
出典：2020年国勢調査〔総務省〕

【図5】産業別総生産額構成比



出典：2019年度市町村民所得推計
〔県統計協会〕

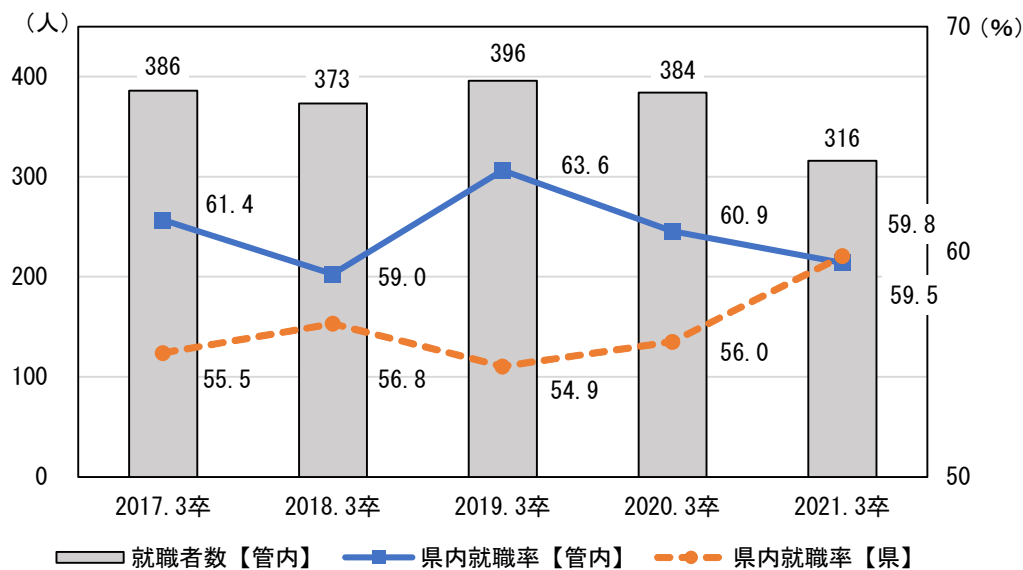
【図6】農業産出額の推移



出展：市町村別農業産出額（推計）〔農林水産省〕

（2015年及び2017年は「茶」を「耕種その他」に含む）

【図 7】新規高卒者の県内就職率の推移



※ 「就職者数【管内】」は、管内の高校における卒業時の就職者数

出典：学校基本調査【文部科学省】

3 教育・子育て環境の変化への対応

少子化により小規模の学校が多くなっており、社会性の涵養、多様な考えに触れる機会が少ない、切磋琢磨する教育活動ができないなど教育環境の整備が課題となっており、このような中で全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現することが求められています。

また、家庭の経済的状況など生まれ育った環境などにより未来が左右されることなく、全ての子どもたちがそれぞれの夢に向かって希望を持ちながら挑戦できる環境を整える必要があります。

子育て環境については、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化など変化しており、子育てに不安や負担を感じる親を支援し、全ての子育て家庭が安全かつ安心して子どもを育てられるよう、地域全体で子育てを支える必要があります。

4 価値観・ライフスタイルの変化と地方回帰への取組

内閣府の調査によると「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（性別役割分担意識^{*1}）に反対する者の割合は、男女ともに長期的に上昇傾向にあり、南薩地域でも、働く女性の割合は増加しています。

また、商品の所有に価値を見出す「モノ消費」ではなく体験や経験を重視する「コト消費」により精神的な豊かさを求めるなど価値観やライフスタイルに変化が見られるほか、働き方も多様化しています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、地方移住への関心は高まりを見せています。

南薩地域は、豊かな自然や美しい景観、安心・安全で豊富な食、個性ある歴史と多彩な文化を有し、多様な価値観やライフスタイルに応じ真に豊かな生活を実現できる大きな可能性を持っています。各市と連携を緊密にし、県民をはじめ、企業、関係団体、NPOなどの多様な主体と協働して移住・定住を促進する必要があります。

^{*1}…性別役割分担意識：男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けること

5 健康課題への対応

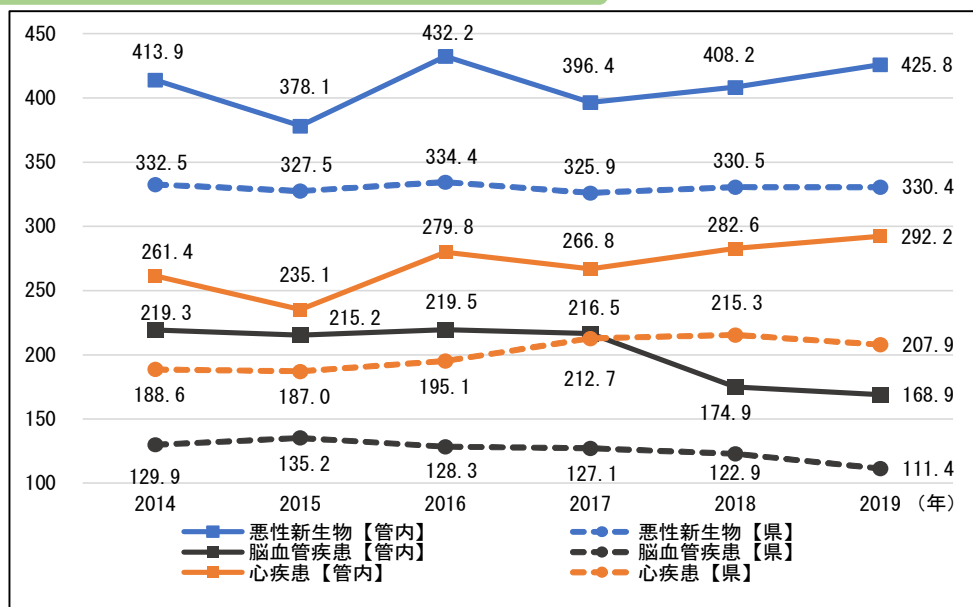
南薩地域は、三大生活習慣病である悪性新生物，心疾患，脳血管疾患による死亡率が県平均を上回り，特に脳血管疾患の死亡率は高い水準で推移しており（図8），健康寿命の延伸と生活の質（QOL）の向上が課題となっています。

食生活の改善や運動習慣の定着など生活習慣病の発症予防に重点を置いた対策のほか，生活習慣病に罹患した場合でも合併症の発症や症状の進展等の重症化予防に向けた対策が必要です。

また，南薩地域では自殺死亡率が多く年代で県平均を上回っており，深刻な状態が続いています（図9）。

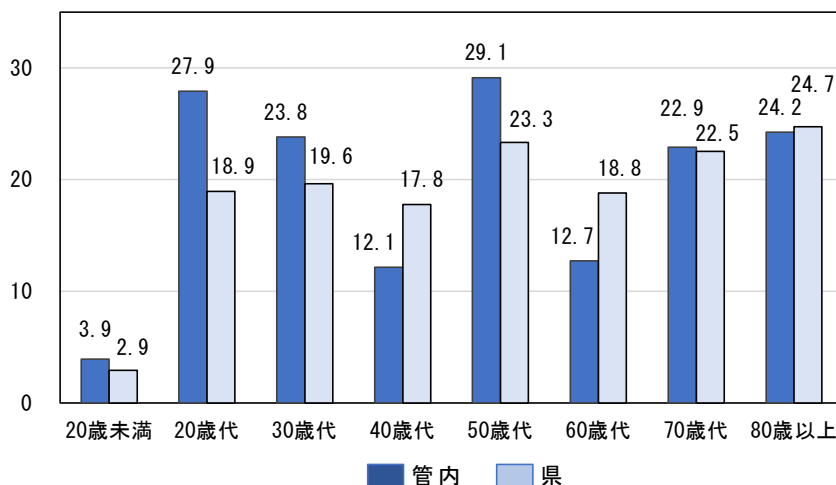
自殺はその多くが追い込まれた末の死であり，その背景には健康問題，経済・生活問題，人間関係等の社会的要因があり，包括的な取組が必要なことから，様々な分野における施策の連動性を高め，人々や組織等と密接に連携した自殺対策を推進する必要があります。

【図8】生活習慣病死亡率の推移（人口10万対）



出典：県人口動態調査統計表〔県保健医療福祉課〕

【図9】年代別自殺死亡率（人口10万対 2017年～2021年平均値）



出典：自殺統計〔厚生労働省〕

6 デジタル化への対応

人口減少社会に対応し、地域の産業が長期的に持続して発展するためにはＩｏＴ^{*1}・ＡＩ^{*2}などのデジタル技術の導入による生産工程の自動化、業務の改善・効率化の取組が必要です。また、医療や福祉、防犯や防災など安心・安全な社会を実現するためにもデジタル技術の活用が必要ですが、地域におけるデジタル化は遅れているのが実情です。

農林水産業をはじめ、製造業や建設業、観光業など、各分野においてデジタル化を推進するため、事業者の意向・状況に応じた支援を行う必要があります。

また、暮らしのデジタル化を推進する上では、全ての県民がデジタル技術に関する正しい知識を持ち、デジタル技術を正しく理解して、デジタルの恩恵を享受できるようにデジタル格差の解消を図る必要があります。

7 環境問題への対応

2050年カーボンニュートラル^{*3}、脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素など温室効果ガス^{*4}の更なる排出削減や、資源やエネルギーの効率的な使用などによる環境負荷の低減、南薩地域に存在する多様で豊かな資源を活用した再生可能エネルギー^{*5}の導入を促進することが重要です。

南薩地域の各市では、ごみの排出抑制・リサイクル等の促進に取り組んでいますが、管内の１人１日当たりのごみの排出量の推移は横ばいの状態であり（図10）、県民や事業者等の理解の深化を図り、自主的な取組を推進する必要があります。

また、南薩地域ではレンタサイクル・シェアサイクルの普及が進んでおり、温室効果ガス排出量の削減に加え、地域内の回遊性の向上、観光の振興など複合的な効果が期待されています。このような取組もきっかけにして脱炭素社会の実現に向けた気運の醸成を図る必要があります。

南薩地域は長い海岸線を有しており、プラスチックごみをはじめとする海岸漂着物による環境への影響が課題です。特にプラスチックごみについては、自然環境の中で細分化してマイクロプラスチックになる前に回収する取組を進める必要があります。

再生可能エネルギーについては、豊富な温泉や森林資源、長い海岸線などの多様で豊かな資源が存在しています。現在、様々な再生可能エネルギーの導入が進んでおり、今後も、自然環境に配慮しつつ、地域との共生を図りながら、恵まれた資源を生かした更なる導入が期待されます。

*1…ＩｏＴ：Internet of Things の略。家電、自動車、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すコンセプトのこと

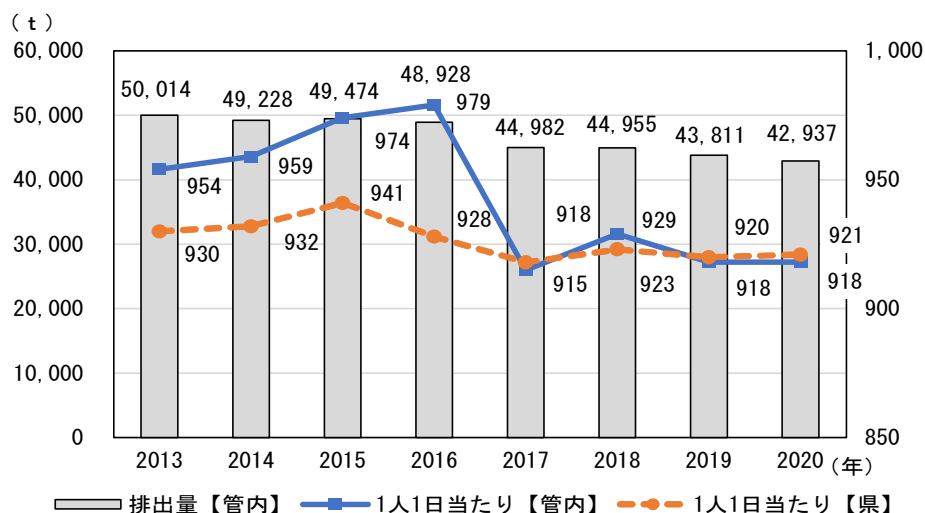
*2…ＡＩ：Artificial Intelligence の略。人工知能。学習や判断などの人間の知能の機能を備えたコンピュータシステム

*3…カーボンニュートラル：二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること

*4…温室効果ガス：二酸化炭素、メタンガス、フロンガスなどの温室効果を持つ大気中に拡散された気体

*5…再生可能エネルギー：石油・石炭などの限りあるエネルギーに対して、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーの総称

【図10】ごみの排出量の推移



出典：県 一般廃棄物処理実態調査結果〔環境省〕
管内 南薩地域振興局衛生・環境課調べ

8 地域の社会資本整備と防災・減災対策

地域間の交流・連携の強化、産業や観光の振興のほか、地域の安心・安全を確保するため主要幹線道路等の整備を促進する必要があります。

また、産業振興の観点からは、枕崎漁港や山川漁港、南薩畑地かんがい※¹施設など生産基盤の着実な整備が必要です。

地球温暖化に起因する異常気象やそれに伴う自然災害が顕著になっており、南薩地域においても、河川のはん濫や大規模な地すべり災害等が発生しています。

河川の寄州除去、砂防施設、治山施設や農業用ため池の整備、間伐などの森林整備などのハード対策と、自助・共助・公助による地域防災力の強化や避難体制の整備などのソフト対策を一体的に推進する必要があります。

*1…畑地かんがい：畑での作物栽培に必要な農業用水を、パイプラインやスプリンクラーなどを使って、貯水池などから畑まで供給する仕組み

第3章 南薩地域の目指す姿

第1章「改訂の趣旨」や第2章「時代の潮流と南薩地域の現状・課題」を踏まえ、おおむね10年後を展望し、南薩地域が目指す姿を

「誰もが安心して暮らし、活躍できる南薩地域」

とし、時代の潮流にも的確に対応し、将来にわたって全ての県民が生き生きと活躍し、安心して心豊かに暮らし続けられる南薩地域の実現に向け、「未来を拓く人づくり」、「暮らしやすい社会づくり」、「活力ある産業づくり」に取り組み、これらの好循環を生み出すことにより、目指す姿を実現します。

1 未来を拓く人づくり

～県民一人ひとりが地域に誇りを持ち多彩な個性と能力を発揮する社会へ～

地域や各種産業を支える人材、新たな未来を切り拓いていく人材の確保・育成に取り組みます。また、郷土の発展を支えようとする人材を育成するため、郷土教育の充実を図るとともに、誰もが個性と能力を十分に発揮できる社会を目指します。

2 暮らしやすい社会づくり

～誰もが生涯を通じて健やかで安心して心豊かに暮らせる社会へ～

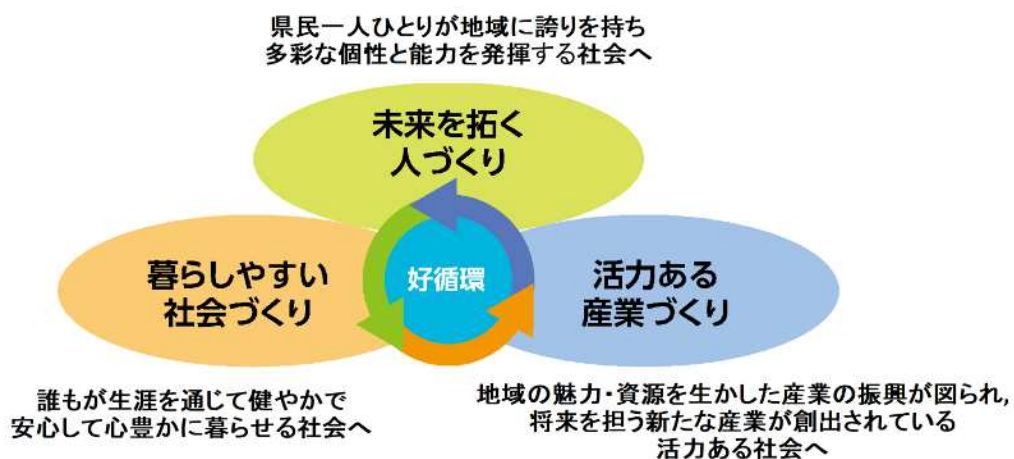
結婚・出産・子育てしやすい環境の整備や高齢者が健やかで生きがいを持てる社会の形成などに取り組み、これらを基盤として、高齢者や女性、障害者、子どもなど、誰もが安心して暮らせる南薩地域をつくります。

3 活力ある産業づくり

～地域の魅力・資源を生かした産業の振興が図られ、

将来を担う新たな産業が創出されている活力ある社会へ～

南薩地域の基幹産業である農林水産業、観光関連産業の更なる振興に取り組むとともに、高い技術力を有する製造業の競争力の強化や将来を担う新たな産業の創出に取り組むなど、南薩地域の「稼ぐ力」の向上を図ります。



第4章 南薩地域振興の取組方針

1 誰もが健康でいきいきと活躍できる地域社会づくり

(1) 誰もが個性と能力を発揮し活躍できる地域社会づくり

年齢や性別、障害の有無、国籍や民族の違いに関わらず、全ての人が個性や能力を発揮していきいきと活躍できる地域社会づくりを推進します。

- ・ 固定的な性別役割分担意識^{*1}にとらわれず、誰もが多様な生き方を自らの意思で選択し、様々な分野に参画できるよう、ジェンダー平等・男女共同参画の理解を深めるための取組を推進します。
- ・ 福祉サービス等の提供体制の整備や障害を理由とする差別の解消を図り、障害の有無にかかわらず、社会活動や経済活動、文化活動に参加できる社会づくりを推進します。
- ・ 各市の障害者に対する総合的な相談支援体制の中核的役割を担う「障害者基幹相談支援センター（仮称）」の設置を促進します。
- ・ 外国人の持つ多様性への理解を深め、それぞれの文化的違いを尊重しながら、外国人が住みやすく訪問しやすい地域づくりを推進します。

(2) 健康で長生きできる地域社会づくり

健康寿命の延伸と生活の質の向上を図るとともに、誰もが自殺に追い込まれることのない地域社会づくりを推進します。

- ・ 各市及び健康関係団体と連携して生活習慣の改善のための意識啓発を推進し、生活習慣病の発症・重症化予防に努めます。
- ・ 生活習慣病有病者及び予備群の早期発見と生活習慣の改善を図るため、各保険者が行う特定健康診査・特定保健指導の実施を促進します。
- ・ 南薩地域において特に死亡率の高い脳卒中について、各ライフステージに応じた生活習慣病等の予防に関する正しい知識の普及啓発を図るとともに、各市が取り組む発症・重症化予防対策を促進します。
- ・ 各市や関係機関と連携したがんの予防や早期発見・早期治療のための取組を推進するとともに、治療と就労の両立支援を推進します。
- ・ 生活習慣病対策としての歯周病予防及び医科歯科連携・多職種連携を推進します。
- ・ 誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を図るために、自殺対策関係者会議等を開催するとともに、各市が開催する会議に参加するなどネットワークの強化を図ります。
- ・ ゲートキーパー^{*2}養成研修会やこころのケアスタッフ養成研修会を開催し、自殺対策に携わる人材の育成を図ります。
- ・ 救急告示医療機関及び精神科医療機関、警察等と密接に連携を図り、自殺未遂者の早期発見から適切な支援につなげ、自殺の再企図防止に努めます。

*1…性別役割分担意識：男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けること

*2…ゲートキーパー：自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人のこと

(3) 住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられる地域包括ケアの推進

高齢者や障害者等が、住み慣れた地域で自立し、社会参画し、尊厳を持ってその人らしい生活を送るために、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制づくりを推進します。

- ・ 高齢者が、豊富な知識・経験・技能を生かして、地域づくりの担い手として社会参加することを支援します。
- ・ 入退院調整ルール^{*1}の運用等を通じ、高齢者等の状態に応じた包括的かつ継続的なサービスが提供できるよう、医療・介護連携を推進します。
- ・ 壮年期からの健康づくりについての推進体制の整備と普及啓発を図るとともに、フレイル予防^{*2}やロコモティブシンドローム^{*3}の発症・重症化予防に取り組みます。
- ・ サービス付き高齢者向け住宅^{*4}など高齢者が安心して暮らせる居住空間の整備を促進します。
- ・ 高齢者の多様な日常生活のニーズや外出や買い物などの社会参加のニーズに対応できるよう、多様なサービスや身近な通いの場の創出に向けた取組を支援します。
- ・ 認知症の予防や早期診断・早期対応を推進するとともに、認知症の人と家族への支援の充実を図ります。
- ・ 障害の有無にかかわらず、社会活動や経済活動、文化活動に参加できる社会づくりを推進します。
- ・ 精神障害者が地域で生活するための地域移行の体制整備や関係機関及び各市などとの重層的な支援体制を構築します。

(4) 誰もが安心して必要な医療を受けられる地域づくり

誰もが安心して必要な医療を受けられるために、医師や看護師をはじめとした医療従事者が確保されるなど、地域において必要な医療提供体制の充実を図ります。

また、様々な感染症に対しては、まん延を防止するとともに、感染状況に応じて速やかな対応ができるよう体制を整備します。

- ・ 「かかりつけ医」を中心とした多職種連携を推進するとともに、切れ目のない医療サービスを提供するための地域医療連携体制整備を推進します。
- ・ へき地医療拠点病院（県立薩南病院）を中心としたへき地医療や救急医療の提供体制の充実を図ります。
- ・ 健康危機事象の発生に備え、マニュアルの整備や訓練を実施するとともに、各市や医療機関等の関係機関との連携による危機管理体制の整備・強化を図ります。
- ・ 感染症予防に関する知識の普及啓発と、発生時の情報収集・提供によるまん延防止対策を推進します。

*1…入退院調整ルール：患者が退院する際に、在宅で必要な医療・介護サービスが切れ目なく受けられるよう、医療機関とケアマネジャー間で入院した時から情報を共有し、退院に向けてカンファレンスやサービス調整等を行うための連携のしくみ

*2…フレイル：年をとって体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態

*3…ロコモティブシンドローム：運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態

*4…サービス付き高齢者向け住宅：高齢者が安全に安心して居住できるよう、バリアフリー化され、安心できる見守りサービスの利用が可能な高齢者向け賃貸住宅

(5) 「する・みる・ささえる」スポーツの推進

健康増進や体力向上等，県民が主体的にスポーツに親しむ環境を整えるため，競技団体等との連携を図り，各種大会の充実等，地域スポーツの振興に取り組みます。

- ・ ライフステージやニーズに応じた生涯スポーツを推進します。
- ・ 競技団体及び各市スポーツ協会と連携し，競技スポーツを推進します。



県民体育大会南薩地区大会

2 結婚，妊娠・出産，子育ての希望がかなう地域社会づくり

(1) 結婚，妊娠・出産の希望をかなえ，安心して子育てができる地域社会づくり

結婚，妊娠・出産の希望がかなえられ，働き方や暮らし方に合わせて，安心して子どもを育てられる環境を整備します。

- ・ 社会全体で結婚を応援する気運の醸成を図るとともに，各市における出会いのきっかけづくりなどの取組を支援します。
- ・ 妊婦健診に対する助成等，妊娠・出産に係る経済的負担の軽減を図るとともに，市が設置する子育て世代包括支援センター等による妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない包括的な支援体制の構築を促進します。
- ・ 妊娠・出産から新生児に至る高度専門的な医療を効率的に提供する総合的な周産期医療や，小児医療の提供体制の確保を図ります。
- ・ 就労形態の多様化に伴う様々な保育ニーズに対応するため，乳幼児の一時預かりや，病児保育，ファミリー・サポート・センターの設置など，子育て世帯が利用できる多様な保育サービスの充実に向けた各市の取組を促進します。
- ・ 地域や職場，家庭で子育てしやすい環境づくりに取り組む「育児の日」の普及など，地域全体で子育てを応援する気運の醸成を図ります。

(2) 子どもたちが未来に希望を持てる地域社会づくり

生まれ育った環境などにより，子どもたちの未来が左右されることなく，未来に希望を持ってそれぞれの夢に挑戦できる地域社会づくりを推進します。

- ・ 低所得世帯・ひとり親世帯等に対し，貸付等による経済的支援及び生活の安定と向上に向けた支援を行います。
- ・ 児童虐待の発生予防や早期発見・対応を図るため，児童相談所が主催する子どもSOS地域連絡会議等を通じたネットワークの整備や広報・啓発を実施します。

- ・ 全ての妊産婦，子育て世帯，子どもへ一体的に相談支援を行う機関として市における「子ども家庭センター」の設置を促進します。
- ・ 発達障害などの障害児については，各市をはじめ，保健，医療，福祉，保育，教育機関等と連携し，ライフステージに応じた切れ目のない地域支援体制の充実を図ります。

3 未来を拓く人づくり，地域を支える人財の確保

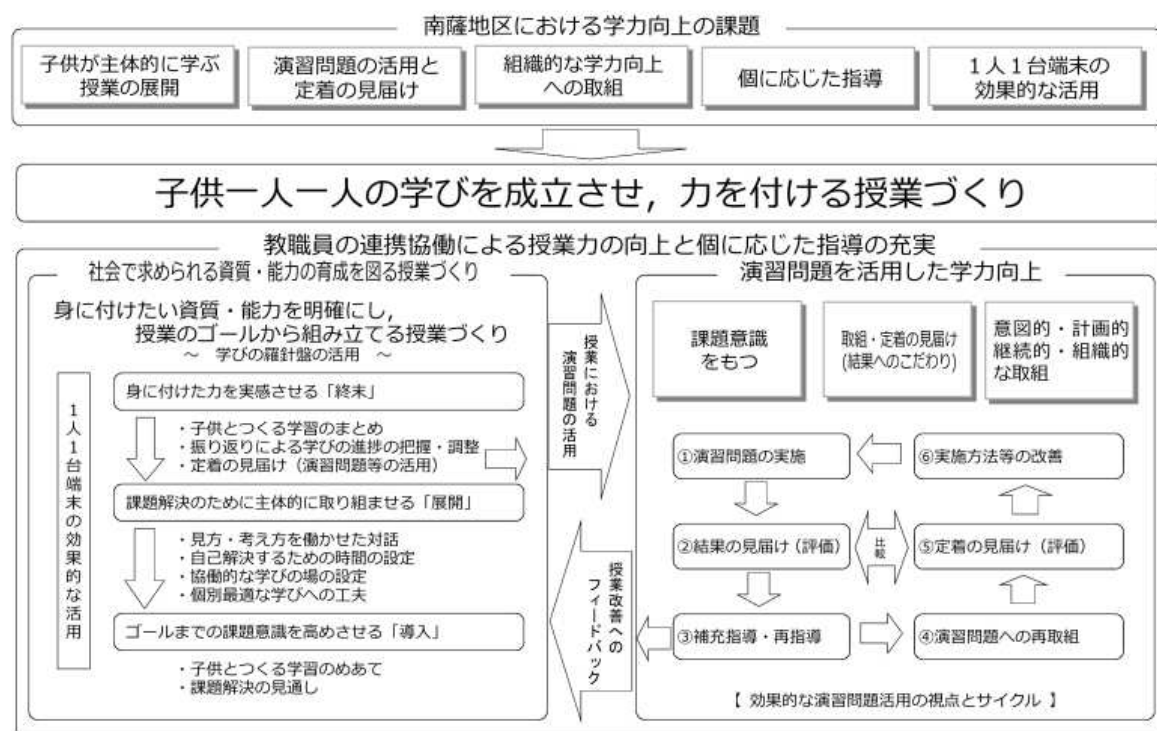
(1) 未来を拓く人づくり

ア 学校・家庭・地域が連携・協働する教育の推進

学校，家庭，地域が連携・協働した教育活動を推進することで，持続可能な社会の創り手を育成する地域の教育力の向上を図ります。

- ・ 子どもたちが，社会と関わり合いながら新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育成します。
- ・ 学校と社会との接続を意識した質の高い教育を実現するための教員の授業力及び資質・能力の向上を図ります。
- ・ 福祉等と連携し，地域全体で子どもを育むための家庭教育の充実を図ります。
- ・ キーパーソンとなる人材やNPO等の活用と地域における学校との協働体制の充実を図ります。
- ・ 公民館，図書館及び社会教育団体等との連携による生涯学習^{*1}の機会の充実を図ります。

南 薩 地 区 の 学 力 向 上



*1…生涯学習：自己の充実や生活の向上のために，人生の各段階での課題や必要に応じて，あらゆる場所，時間，方法により学習者が自発的に行う自由で広範な学習

イ 地域を愛し、地域の発展を牽引する人材の育成

地域のリーダーとして活躍できる、郷土や自身を大切にする自己肯定感の高い人材を育成するため、地域素材を活用した学習や異年齢集団による体験活動、ICT^{*1}を活用した学びを推進します。

- ・ 地域素材を生かした学びによる地域のよさを再発見させるとともに、郷土を愛する心情を育てます。
- ・ 異年齢集団での体験活動を充実させ、地域や社会に貢献する人材を育成します。
- ・ 一人一端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した学習を通して、次世代に求められる情報活用能力を高め、技術革新を牽引する人材を育成します。
- ・ 職場体験や起業体験の充実により個々のキャリア発達^{*2}を支援します。
- ・ 様々な体験活動や異年齢の子どもたちによる活動や世代間交流、他の地域や海外の青少年との交流活動を推進します。



遠隔授業
(南さつま市立大笠中学校)

ウ 文化財の保存・活用や文化・芸術活動の発信など、特色ある学びの機会の充実

地域における文化財の保存・活用や伝統芸能の保存・継承に向けた活動に取り組むとともに、芸術展や俳句・短歌大会、スピーチコンテストなど参加型の文化活動を推進します。

- ・ 地域の歴史や文化に根ざした参加型の文化活動を推進します。
- ・ ブックトーク^{*3}やビブリオバトル^{*4}など、読書に親しむ機会を充実させるとともに、「1日20分読書」運動などの学校、家庭、地域における読書活動を推進します。
- ・ 地域における文化財や歴史資料館、考古博物館等の積極的な活用を推進します。
- ・ 地域の郷土芸能や伝統行事等の保存及び伝承活動を推進します。



士(さむらい)踊り
(竹田神社)

*1…ICT: Information and Communication Technologyの略で情報通信技術のこと。ITにコミュニケーションの要素を加え、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現

*2…キャリア発達: 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

*3…ブックトーク: テーマに沿って複数の本の内容を紹介し、読書意欲を起こさせる活動

*4…ビブリオバトル: お勧めの本を紹介し合い、魅力を感じた本を決める書評合戦

(2) 地域を支える人財の確保

ア 地域産業の振興を支える人財の確保・育成

生産年齢人口が減少する中、地域産業の成長や活力を確保していくために、働く人一人ひとりの職業能力の向上、生産・研究開発を支える人材の育成、国際的に活躍できる人材、デジタル社会を支える人材等の確保・育成、後継者や担い手の確保・育成等を推進します。

- ・ 企業の生産性の向上や新たな研究開発を担う人材、ICT関連産業を支える人材、国際的なビジネス展開に向けたグローバル人材など地域産業の振興を支える人材の確保・育成を推進します。
- ・ 川辺仏壇をはじめとする地域の伝統的工芸品産業において、後継者の確保や技術の継承を図るため、市や産地組合等の取組を支援します。
- ・ ワーケーション^{*1}による都市圏等の人材と地域との交流を契機とし、地域産業を支える人材の確保を図ります。

イ 若年者等の地元就職促進

若年者等の進学・就職による転出が人口減少の要因のひとつであることから、南薩地域の企業の魅力等について積極的に情報発信し若者等の南薩地域への定着を促進するとともに、地域外に進学・就職した若者等が一定の経験を積んで帰ってくるようUIターン人材の確保に向けた取組を推進します。

- ・ 各市、商工団体、高校と連携し、高校生やその保護者等に対し、南薩地域で働き暮らすことの魅力や南薩地域の企業の魅力を発信します。
- ・ 県外大学進学者やUIターン希望者に対し、SNS等を活用した情報発信を行います。

ウ 多様な人財が就労できる環境づくり

年齢や性別、障害の有無、国籍や民族の違いに関わらず、全ての人が個性や能力を発揮して就労できる環境づくりを促進します。

- ・ 働く意欲のある高齢者が能力や経験を生かして生涯現役で働くことができる社会を実現するため、各市、シルバー人材センター、ハローワーク等と連携して多様な就労機会の提供を促進します。
- ・ 女性が自らの希望に応じて最大限に能力を発揮し、働くことができるよう雇用環境の整備を促進します。
- ・ 障害者の多様な就労ニーズに応じた雇用環境の整備や雇用機会の確保を促進します。
- ・ 外国人材が安心して働き、暮らせる地域づくりを推進し、外国人材の安定的な受入を支援します。

*1…ワーケーション：Work（仕事）とVacation（休暇）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと

4 地域産業の「稼ぐ力」の向上

(1) 農林水産業の「稼ぐ力」の向上

ア 人づくり・地域づくりの強化

(7) 農林水産業を支える人材の育成

新規就業者や地域を担う経営体など、南薩地域の農林水産業を支える人材を各市・団体等と連携して育成します。

- ・ 認定農業者^{*1}や新規就農者、農業法人、女性リーダー、集落営農組織^{*2}など、多様な担い手を育成します。
- ・ 農業マッチングアプリ^{*3}の活用や外国人材の円滑な受入、農福連携の推進など、地域の農業を支える多様な人材確保に向けた取組を支援します。
- ・ 森林・林業に関する魅力の発信に努めるとともに、就業相談窓口の設置や基礎的な技能講習、能力に応じた段階的な技能実習等により、新規就業者や現場技能者の確保・育成を支援します。
- ・ 新規漁業就業者や中核的な漁業者の育成を支援するとともに、女性の参画のほか外国人材の活用など、多様な担い手の活用を促進します。



青年農業者に対する研修



森林作業道作設技術研修

(イ) 農山漁村の活性化

地域の特性を生かした農林水産物の生産・販売や都市農村交流等に取り組むとともに、日本型直接支払制度^{*4}等を活用し、農業・農村の有する多面的機能の十分な発揮と荒廃農地の拡大防止等を支援します。

- ・ 中山間地域^{*5}の特性を生かした生産・販売対策や都市農村交流などの地域活性化に向けた取組を支援します。
- ・ 日本型直接支払制度等の活用により、中山間地域が持つ多面的機能を維持・発揮する活動や生産活動を継続するための活動等を支援します。

*1…認定農業者：農業者が市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、経営の改善を進めようとする計画を市町村等が認定した者

*2…集落営農組織：集落を単位として、農業生産過程の全部又は一部について共同で取り組む組織

*3…農業マッチングアプリ：農業でバイトしたい人と農繁期の働き手が欲しい農家をつなぐマッチングアプリ

*4…日本型直接支払制度：農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために行う地域共同の保全活動や農業生産活動の継続、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援する制度。多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払の3支払から構成

*5…中山間地域：山間地及びその周辺の地域。そのほか地理的条件が悪く、農業をするのに不利な地域

- ・ グリーン・ツーリズム^{※1}，ブルー・ツーリズム^{※2}など，観光と連携しながら都市と農山漁村との交流を促進します。



多面的機能を維持・発揮する活動



地域活性化に向けた活動
(田んぼアート)

イ 生産・加工体制の強化，付加価値の向上

(7) 南薩地域の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり

南薩地域のかごしまブランド^{※3} 産品を中心に，温暖な気候と畑地かんがい^{※4}施設を生かした産地づくりを推進するとともに，スマート農業の導入・普及や，GAP^{※5}の取得拡大，総合的病害虫・雑草管理（IPM）^{※6}の導入など，新しい取組への支援と地域農業の持続的発展を推進します。

- ・ 温暖な気候と畑地かんがい施設を生かした特色ある野菜・果樹・花き・特産作物の産地づくりに向けた取組を支援します。
- ・ 地域ブランドを生かした日本一の茶産地づくりと有利販売に向けた有機栽培茶や碾茶（てん茶）^{※7}等の生産を支援します。



野菜・果樹・花きの産地づくり



日本一の茶産地づくり

*1…グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然，文化，人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

*2…ブルー・ツーリズム：島や沿海部の漁村に滞在し，魅力的で充実したマリンライフの体験を通じて，心と体をリフレッシュさせる余暇活動

*3…かごしまブランド：安心・安全はもとより，品質，出荷数量で一定の基準を満たした農畜産物

*4…畑地かんがい：畑での作物栽培に必要な農業用水を，パイプラインやスプリンクラーなどを使って，貯水池などから畑まで供給する仕組み

*5…GAP（農業生産工程管理）：Good Agricultural Practice の略称で，農業において，食品安全，環境保全，労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組

*6…総合的病害虫・雑草管理（IPM）：利用可能な全ての防除技術（耕種的防除，物理的防除，生物的防除，化学的防除）を総合的に講じることで，病害虫，雑草の発生を抑える技術

*7…碾茶（てん茶）：新芽に覆いをして栽培した茶葉を揉まずに乾燥した茶

- ・ 需要に応じた米生産と加工用米・飼料用稲、野菜等を組み合わせた水田フル活用に向けた取組を支援します。
- ・ 有機農業の技術確立・普及及びIPM技術を活用したオクラやスナップエンドウ等の生産や温泉熱を活用した観葉植物の生産など、「みどりの食料システム戦略^{*1}」に基づく持続可能な環境負荷軽減の取組を推進します。



IPM技術（天敵利用）を活用したオクラ生産



温泉熱を利用した観葉植物生産

- ・ 食の安心・安全を確保するGAP（農業生産工程管理）等の認証取得に向けた取組を支援します。
- ・ 畜舎等の整備による規模拡大や増頭対策等の畜産経営への支援を行うとともに、スマート畜産技術の導入促進、農作業支援組織の育成などによる生産基盤の強化を図ります。
- ・ 荒廃農地等の未利用地活用による飼料増産と飼料生産の外部化、放牧等による飼料自給率向上の取組を支援します。
- ・ 農業水利施設の定期的な管理の徹底と効率的かつ計画的な補修・更新を推進します。
- ・ 農業用排水施設の整備等による農地の汎用化を推進します。
- ・ 選果施設等の整備など地域農産物の効率的な集出荷体制の構築へ向けた取組を支援します。
- ・ 規模拡大に伴う畜舎や家畜排せつ物処理施設等の整備を推進します。
- ・ 農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積・集約化と経営の効率化へ向けた取組を支援します。
- ・ 荒廃農地の発生防止と遊休農地解消に向けた取組を支援します。



コントラクターによる飼料生産

*1…みどりの食料システム戦略：令和3年5月に農林水産省が策定した、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を技術革新で実現するための戦略

(イ) 森林資源の循環利用

森林資源の充実や木材需要の増加を背景に、木材生産量は増加傾向となっているため、木材生産・流通の更なる効率化等を図るとともに、森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、計画的な間伐の実施やスギ・ヒノキ人工林の伐採跡地の再造林を推進します。

- ・ 森林施業の集約化や路網の整備、高性能林業機械の導入を支援します。
- ・ 低コストで効率的な作業システムの普及・定着、木材の生産現場から製材工場等への直送やICT等の技術を活用した生産・流通の合理化等を促進します。
- ・ 森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、スギ・ヒノキ等の適地において、伐採跡地の再造林と計画的な保育を推進します。



高性能林業機械の作業状況



間伐実施後の森林

(ウ) 持続的・安定的な漁業生産

持続的・安定的な漁業生産を実現するために、水産資源の維持・増大の取組等を支援するとともに、生産基盤となる漁港・漁場の整備や藻場造成等を推進します。

- ・ 水産資源の維持・増大や漁場環境の保全の取組等を支援するとともに、生産基盤となる漁港・漁場の整備を推進します。
- ・ 地域にある県水産技術開発センターと連携した藻場^{*1}造成の推進や多様化する消費者ニーズや流通形態に対応した付加価値の高い商品づくりへの取組を支援します。



藻場造成の状況
(水中ドローンによる撮影)

(エ) 6次産業化の推進

南薩地域の農林水産物の付加価値を高めるため、6次産業化に取り組む生産者等を支援します。

- ・ 6次産業化^{*2}商品の開発や商談・販売機会の提供等による販路開拓を支援します。

*1…藻場：沿岸の浅場に海藻や海草が群落をつくっている場所

*2…6次産業化：地域資源を活用し、農林漁業者等が農林水産物等の生産、加工、販売等を一体的に行い、新たな価値を生み出す取組

(オ) ロボット技術，ＩＣＴ等を活用したスマート農林水産業への挑戦

ロボット技術，ＩＣＴ等の先端技術などを活用したスマート農林水産業※¹の普及による生産性の向上に向けた取組を支援します。

- ・ 稼げる農林水産業の実現に向け，ＩＣＴ等の先端技術などを活用したスマート農林水産業の普及による生産性の向上に向けた取組を促進します。
- ・ 農業者の理解促進や体制づくり，現地における技術実証活動等の実装化に向けた取組を支援します。



直進アシスト機能付き田植機

(カ) 動植物の防疫対策

サツマイモ基腐病※²やミカンコミバエ等の病害虫のまん延を防止するとともに，豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の侵入防止対策を強化します。

- ・ サツマイモ基腐病やミカンコミバエなど，農業生産や農業経営に甚大な影響を及ぼす病害虫のまん延防止対策を強化します。
- ・ 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等について，飼養衛生管理基準の遵守による侵入防止対策を強化します。



ドローンによる航空防除

(キ) 農林水産業における災害の防止等

国の「国土強靱化基本計画」に基づき，農地・農村の防災・減災対策を推進するとともに，野生鳥獣による農作物被害の防止を図るなど，農林水産業における災害を防止します。

- ・ 農業用ため池，排水施設及び保全施設の整備等のハード対策とため池ハザードマップ策定や農業用ダムの洪水調節機能強化等のソフト対策を併せて行い，一体的な農地・農村の防災・減災対策を推進します。
- ・ 鳥獣被害対策事業等の活用により，野生鳥獣による農作物被害の防止・軽減対策を推進します。



鳥獣害防止対策研修会

*1…スマート農林水産業：ロボット技術やＩＣＴなどの先端技術を活用して省力化・高品質生産の実現や，安全性の向上を図る新たな農林水産業

*2…サツマイモ基腐病：県内では2018年に初めて発生が確認されたさつまいもの病害で，病原菌は糸状菌（カビの一種）

ウ 販路拡大・輸出拡大

(ア) 国内市場のニーズに対応した農林水産物の販売対策と利用促進

南薩地域の農林水産物の特性を生かし、加工・市場ニーズに対応した販売対策を促進するとともに、地産地消や食育等への取組を支援します。

- ・ 農畜産物の安定生産のため、加工・流通業者等と連携した契約取引を推進します。
- ・ 食育活動による農林水産業への理解促進と観光や健康と結びついた地産地消に対する取組を支援します。
- ・ G A P（農業生産工程管理）や地理的表示保護制度（G I）※¹取得の取組を支援します。
- ・ 観光（ホテル等）と連携した観葉植物の販路拡大対策を推進します。



販促フェア（観葉植物）



販促フェア（ブランド産品）

(イ) 県産材の利用促進と供給体制強化及び特用林産物の産地づくり

林業・木材産業が安定的に成長できるよう、木材生産・流通の更なる効率化や木材産業の競争力の強化のため、生産・流通の合理化等を促進し、林業の生産性の向上、県産材の安定供給体制を支援します。

また、特用林産物※²は、農山村における就労機会の創出や収入源の確保に大きな役割を果たしており、地域特性を活かした生産性や付加価値の高い特用林産物の産地づくりを支援します。

- ・ 施業の集約化や路網の整備、高性能林業機械の導入、低コストで効率的な作業システムの普及・定着、木材の生産現場から製材工場等への直送やI C T等の技術を活用した生産・流通の合理化等を促進し、林業生産性の向上、県産材の安定供給体制づくりを支援します。
- ・ 品質・性能の確かなJ A S製材品等の生産体制の整備により、需要者のニーズに対応したかごしま材を低コストで安定的・効率的に供給できる体制づくりを支援します。

*1…地理的表示保護制度（G I）：地域には長年培われた伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地の特性が、品質などの特性に結びついている産品が多く存在しており、これら産品の名称（地理的表示）を知的財産として登録し、保護する制度

*2…特用林産物：森林や原野で生産された産物（林産物）のうち、木材（一般用材）を除いた品目の総称（たけのこ、しいたけ、花木類等）

- ・ 非住宅建築物等の木造化・木質化，かごしま材を積極的に使用した家づくり等ＪＡＳ製材品の普及と利用促進などにより，県産材の利用拡大と新たな木材需要の創出を支援します。
- ・ しいたけや枝物※¹等の安定的かつ効率的な生産体制及び集出荷体制の整備，消費者ニーズに対応した優良品種の生産促進を図るなど特用林産物の産地づくりを支援します。
- ・ 特用林産物の生産基盤の整備支援や生産に必要な技術研修等を実施し，新規生産者や後継者の確保・育成を支援します。



ＪＡＳ製材品等の生産体制の整備
(株)南薩木材加工センター



シキミ サカキ ヒサカキ
特用林産物（枝物）

(ウ) 水産物の販路拡大

地域特産魚や水産加工品の高付加価値化や輸出先国のニーズに対応した施設整備などにより国内外の販路・消費拡大を推進します。

- ・ カツオ，タカエビなどの地域特産魚やかつお節などの水産加工品のブランド化，高付加価値化及び地産地消並びに輸出先国のニーズに対応した施設整備等による国内外の販路・消費拡大を推進します。
- ・ 海外で日本食が普及する中，出汁の食文化のＰＲによるかつお節の消費拡大を促進します。



かつお節削り工場

(イ) 「攻めの農林水産業」の実現に向けた輸出拡大

南薩地域の強みを生かせる農林水産物について，相手国に対応した生産・加工技術等の確立を支援するとともに，農畜産物の輸出を推進します。

- ・ 野菜・果樹等のかごしまブランドを中心とした銘柄確立と海外輸出へ向けた取組を支援します。
- ・ 海外で需要が拡大している緑茶（有機栽培茶，抹茶など）や野菜（キャベツ，かぼちゃ），果樹（きんかん）等の各国への輸出拡大，かごしまブランドの国内外へ向けた情報発信を支援します。
- ・ 南薩地域の食肉加工業と連携した畜産物の品質向上や知名度向上のためのＰＲ活動，和牛日本一や鶏肉のハラール※²認証取得などの特色を生かした食肉の海外輸出に向けた取組を支援します。



和牛日本一の鹿児島黒牛

*1…枝物：シキミ・サカキ・ヒサカキ等の花木類

*2…ハラール：イスラム法において合法的なもの

(2) 観光の「稼ぐ力」の向上

ア 広域連携による滞在型観光の推進

近隣自治体や大隅半島、種子島・屋久島などとの広域的な連携を進め、国内外からの多くの観光客に地域の魅力に深く触れてもらうために、長期滞在型の観光を推進します。

また、地域の人や生活・文化に触れ合うことができる体験型観光メニューの拡充により、滞在型観光を推進します。

- ・ 吹上浜金峰山県立自然公園、坊野間県立自然公園、薩南海岸県立自然公園、霧島錦江湾国立公園等の豊かな自然や良好な景観を生かした周遊型観光を推進します。
- ・ 薩摩半島の先端にある長崎鼻や野間岬、ＪＲ日本最南端の駅「ＪＲ西大山駅」、本土最南端の始発・終着駅「ＪＲ枕崎駅」等特有の観光資源を生かした魅力ある観光地づくりを推進します。
- ・ アジアに近い地理的特性を生かし、アジア地域を中心とした海外からの誘客促進に向けた取組や受入体制の充実などインバウンド※¹対策を推進します。
- ・ 深海魚等新たな食資源となり得るもののブランディング化など“食”を生かした観光振興を推進します。
- ・ 指宿地区を拠点とした広域的な長期滞在型の観光を推進します。
- ・ 豊富な観光資源を持つ鹿児島・大隅・種子島・屋久島と連携し、高速船等の交通網を活用した多彩な観光を提供します。
- ・ 自転車による周遊観光（サイクルツーリズム※²）を推進します。
- ・ ＪＲ指宿枕崎線と路線バスやレンタサイクル等を組み合わせた広域的な観光振興を推進します。
- ・ 多様な観光ニーズに対応するため、グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムなどテーマ別観光を促進します。
- ・ 各市や関係団体と連携し、地域をコーディネートする担い手や観光ボランティアガイド、通訳案内士など観光を担う人材や組織の育成を図ります。
- ・ 誰もが安心・快適な観光を満喫できるよう、観光関係施設等のバリアフリー化やユニバーサルツーリズム※³を促進します。
- ・ 公衆無線ＬＡＮ（無料Ｗｉ－Ｆｉ）等の整備促進、観光関連情報の多言語化やキャッシュレス決済の普及・啓発を図ります。



自然公園と先端の観光スポット



市が整備したレンタサイクル

*1…インバウンド：外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す

*2…サイクルツーリズム：「サイクリング・自転車」と「観光・旅行」を組み合わせたものであり、自転車に乗りながら、地域の自然や地元の人々、食事や温泉といったあらゆる観光資源を五感で感じ、楽しむことを目的としたツーリズムのこと

*3…ユニバーサルツーリズム：すべての人が楽しめるよう創られ、高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行

イ 観光拠点づくりの推進

価値観の多様化や個人のライフスタイルの変化とともに、観光の形態や目的はますます多様化しており、それに対応できるような観光拠点の創出を図ります。

- ・ 地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の県内各地への周遊を促進します。
- ・ 観光客の多様なニーズに対応した観光施設の整備を促進します。
- ・ 観光地における環境の保全を図り、豊かな自然環境と共生する持続可能な観光地づくりを推進します。
- ・ 既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の発掘のためのマイクロツーリズム^{*1}を促進します。
- ・ グリーン・ツーリズムやサイクルツーリズム等を通じた観光客と地域住民との交流拠点の整備・充実を図ります。
- ・ スポーツキャンプ・合宿等の誘致活動推進によるスポーツを通じた交流人口^{*2}の拡大や地域活性化を図ります。
- ・ 知覧特攻平和会館や万世特攻平和祈念館、戦跡等を活用した平和教育やグリーン・ツーリズムや農家民泊など体験型教育旅行の誘致を促進します。
- ・ 人々が川に親しみ、地域におけるふれあいの場となるような水辺空間を整備します。



水辺空間の整備（麓川）

ウ デジタルを活用したマーケティングや情報発信の展開

マーケティングの結果に基づく観光戦略により、対象等を明確化した効果的・戦略的な誘客活動を行い観光客の来訪を促進します。
また、各市をはじめ、観光協会、近隣自治体と連携し、インターネット等を活用した情報発信を行い、効果的かつ持続的なPRを展開します。

- ・ 観光の動向や観光消費の実態、旅行者のニーズの把握・分析などマーケティングの結果に基づく戦略的かつ効果的な誘客を促進します。
- ・ 南薩特有の食、自然、環境等多彩な魅力の掘り起こしを行うとともに、インターネットやSNS等を活用したPR動画等を含めた情報発信や効果的かつ持続的なPR活動を展開します。
- ・ 各市をはじめ、観光協会、近隣自治体と連携した広域的なPR活動を推進します。



南薩での「ワーケーション」をPRするテレビCM

*1…マイクロツーリズム：県内等、近隣地域内での観光

*2…交流人口：観光者等の一時的・短期滞在からなる人口

(3) 企業の「稼ぐ力」の向上

ア 将来を担う新たな産業の創出

地域産業を長期的に持続して発展させるために、中小企業の新事業展開やデジタル化、カーボンニュートラル^{*1}の実現に向けた取組の推進、スタートアップ^{*2}等のイノベーション^{*3}により、地域経済を支える新たな産業を創出し、発展の基盤づくりを促進します。

- ・ 新たな産業の創出に取り組む企業等に対し、事業ニーズの掘り起こしから事業化・販路拡大まで、各段階に応じ総合的に支援します。
- ・ ワーキングスペース^{*4}運営主体等と連携し、起業に向けた機運の醸成を図るとともに環境整備を支援します。

イ 生産性と付加価値の向上による産業競争力の強化

高い技術力を有する製造業の競争力強化を図るため、産学官連携による研究開発や、I o T^{*5}・A I^{*6}など先端技術の導入等による生産性向上を促進します。

- ・ 地域経済を牽引する中核企業等が行う研究開発や生産性向上のための取組を支援します。
- ・ I o T・A Iなどのデジタル技術の導入による生産工程の自動化、業務の改善・効率化の取組や、製造業のサプライチェーン^{*7}全体で進められる二酸化炭素排出削減に向けた省エネ設備導入などへの支援を通じて、ものづくりの基盤強化を図ります。

ウ 中小企業の経営基盤の強化

中小企業の経営基盤を強化するため、経営革新を推進するとともに、円滑な事業承継を促進します。

- ・ 新商品の開発、新サービスの提供や販路開拓など付加価値の向上に積極的に取り組む中小企業等の経営革新の推進や内部統制を含めた持続可能な成長のための戦略策定を支援します。
- ・ 商工団体等と連携し、事業承継に係る経営課題に応じた切れ目ない支援を行い、円滑な承継を促進します。

*1…カーボンニュートラル：二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること

*2…スタートアップ：革新的な技術やアイデアで新たなビジネスを展開する非上場の成長企業

*3…イノベーション：これまでのモノ・仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出すこと

*4…ワーキングスペース：複数の企業等がフリーアドレス形式で利用できるオフィス機能と利用者間の連携・交流を促す特徴的な機能・空間等を有する施設

*5…I o T：Internet of Things の略。家電、自動車、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すコンセプトのこと

*6…A I：Artificial Intelligence の略。人工知能。学習や判断などの人間の知能の機能を備えたコンピュータシステム

*7…サプライチェーン：商品の企画・開発から、原材料や部品などの調達、生産、在庫管理、配送、販売、消費までのプロセス全体を指し、商品が最終消費者に届くまでの「供給の連鎖」

エ 県産品の国内外マーケットへの戦略的な展開

伝統工芸品をはじめとする地域の特産品について、消費者ニーズに対応した売れる商品開発力や営業力の強化を図ります。

- ・ SNS等を活用した情報発信や体験型観光との組み合わせによる地域の特産品の認知度向上を図ります。
- ・ 伝統的工芸品などの特産品について、独自の技術やノウハウを生かした新商品開発や販路開拓に向けた取組を支援します。
- ・ 食品製造業等において、海外展開に必要なISO^{*1}やHACCP^{*2}などの国際的な認証の取得や、HACCP等に対応する施設等の整備を支援し、食品等の輸出拡大を促進します。



川辺仏壇の技術を活用した新商品
(蝶番技術を活用した照明器具)

5 安全・安心・快適に暮らせる地域づくり

(1) 豊かな自然と共生できる脱炭素社会の実現

ア 脱炭素に向けた地域づくり

豊富な温泉や森林資源、広大な海域や長い海岸線などの多様で豊かな地域資源を活用した再生可能エネルギー^{*3}の導入を促進します。

また、二酸化炭素を吸収するなど、脱炭素社会づくりに貢献している森林の機能を高度に発揮させるため、多様で健全な森林づくりを推進します。

- ・ 自然環境に配慮しつつ、地域との共生を図りながら、再生可能エネルギーの導入を促進します。
- ・ スギ・ヒノキ人工林の適地について、計画的な間伐や伐採後の確実な再生林の実施等の適切な森林整備など、森林資源の循環利用を促進し、地球温暖化防止等にご貢献する多様で健全な森林づくりを推進します。
- ・ 「地区植樹祭」や「九州森林の日」など県民が森林にふれあう機会を提供するとともに、森林・林業に関する学習活動への県民の参加を促進し、県民で守り育てる意識の醸成を図ります。
- ・ 地球温暖化防止等にご貢献する藻場の維持・保全活動の取組を支援します。



県民参加の森林づくり
(山川小学校植樹活動)

*1…ISO：国際標準化機構（International Organization for Standardization）の略称 又は同機構が制定する国際規格

*2…HACCP：食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法

*3…再生可能エネルギー：石油・石炭などの限りあるエネルギーに対して、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーの総称

イ 環境負荷が低減される循環型社会の形成

ごみの排出抑制・リサイクル等を推進し、環境負荷が低減される循環型社会の形成を促進します。

- ・ ごみの排出を抑制し、適正に処理するとともに、ごみを再生利用可能な資源として捉え、リサイクル等に取り組むなど、環境に配慮した事業活動を促進します。
- ・ 住民自らがごみの排出者であることを認識し、分別収集のルールへの遵守やリサイクル製品の積極的な利用、買物でのマイバッグの持参、食品の食べきり・使いきりによる食品ロスの削減など、ライフスタイルの一層の見直しを促進します。
- ・ 排出事業者に対しては、処理責任の原則の普及啓発を推進するとともに、優良な処理業者を育成します。
- ・ 産業廃棄物適正処理指導員等による排出事業者や処理事業者への立入・指導を行い不適正処理に対する監視指導を徹底して行います。

ウ 自然と共生する地域社会づくり

多様な自然環境について、その保全・再生を図り、地域活性化につながる持続可能な利用の取組を推進します。

- ・ 清浄な水環境の維持・保全のため、環境衛生監視員等による工場・事業場の排水監視を行います。
- ・ 閉鎖性水域の錦江湾や池田湖について、総合的な水質保全対策に努めます。
- ・ プラスチックごみの海洋への流出を防止するため、ポイ捨てや不法投棄の防止、使い捨て容器・製品の使用削減や代替素材を使用した製品の利用、使用済み製品等の分別回収・リサイクルを促進します。
- ・ プラスチックごみが、自然環境中で細分化してマイクロプラスチックになる前に、海岸漂着物等を回収し、円滑な処理を推進します。
- ・ 学校と地域の人材や関係団体等との連携・協働を図り、地域の特性を生かした自然体験活動の取組を推進します。
- ・ 県立自然公園など地域の特色ある自然環境を生かした地域活性化の取組を推進します。

(2) 強靱な県土づくりと危機管理体制の強化

ア 自助・共助・公助による地域防災力の強化

県民や市、県及び防災関係機関が、それぞれの役割と責任の下に相互に連携・共同して防災・減災対策を行う「自助」「共助」「公助」による地域防災力の強化を図ります。

- ・ 各市間の情報共有や連携を促進し、各市における防災訓練及び防災啓発研修等の実施や、「地区防災計画」や「個別避難計画」の策定を支援します。
- ・ 各市と連携し、災害危険箇所を点検するとともに住民の防災意識の向上を図ります。

イ 防災・減災対策の推進による安心・安全な地域づくり

様々な危機事象に対応するために、社会資本の整備等により防災・減災対策、国土強靱化の充実強化を図り、安心・安全な地域づくりを推進します。

- ・ 河川の寄洲除去，砂防施設の整備，避難体制の整備や一定の開発行為の制限など，ハード対策とソフト対策とが一体となった河川災害，土砂災害，高潮・侵食被害等における災害の未然防止対策を推進します（万之瀬川・中洲川・長崎鼻地区海岸等）。

整備前



整備後



河川の寄洲除去の状況（加世田川）

- ・ 社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一步進め，気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ，あらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」の取組を推進します（万之瀬川・花渡川・二反田川水系等）。



- ①【氾濫をできるだけ防ぐための対策】
氾濫を防ぐ堤防等の治水施設や流域の貯留施設等整備
- ②【被害対象を減少させるための対策】
氾濫した場合を想定して，被害を回避するためのまちづくりや住まい方の工夫等
- ③【被害の軽減・早期復旧・復興のための対策】
氾濫の発生に際し，確実な避難や経済被害軽減，早期の復旧・復興のための対策

「総合治水」の考え方

- ・ 災害発生時における道路交通の機能を確保するため，必要な道路整備を行うとともに，橋梁の耐震対策，法面の防災対策を進め，防災拠点となる市役所や港湾・空港を連絡する緊急輸送道路ネットワークを強化します（国道226号・国道270号等）。



災害に強い道づくり
（国道226号 笠沙道路）

- ・ 河川や砂防，治山等のボランティアと連携して，情報の共有化と防災活動の強化に努めるとともに，各市の防災活動や住民避難が円滑に行われるよう，インターネット等を活用した水位雨量情報や土砂災害警戒情報の提供，土砂災害警戒区域等の指定，ハザードマップの活用促進などソフト対策の充実を図ります（万之瀬川・花渡川水系等）。
- ・ 大規模な地震等により多くの建築物や宅地が被災した場合の二次災害防止を図るため，被災建築物の応急危険度判定調査及び被災宅地の危険度判定調査を行う実施体制を強化します。
- ・ 災害時に速やかな対応が図られるよう，地域に貢献し技術と経営に優れた建設業の育成を推進します。



官民連携による災害訓練（市・建設業協会）



被災時の速やかな対応（大王川）

- ・ 橋梁・トンネルなどの個別施設ごとに策定する長寿命化計画に基づき予防保全対策などを計画的に実施し，長寿命化によるトータルコストの縮減，平準化を図り，公共土木施設の適切な維持管理を実施します。



橋梁の点検状況
（万之瀬橋）



トンネルの点検状況
（丸木崎トンネル）

(3) どこよりも安全で安心して暮らせる地域社会づくり

ア 犯罪や交通事故の少ない安心・安全な地域づくり

関係機関・団体と役割分担しながら連携を強化し，犯罪や交通事故の少ない地域づくりを推進します。

- ・ 警察署や各市，学校，地区公民館，NPO等の関係機関・団体，地域住民と連携し，犯罪や交通事故の少ないまちづくりを推進します。

- ・ 教育委員会や道路管理者、警察などが連携した「通学路交通安全プログラム」等に基づくソフト・ハード対策を実施します。
- ・ 「ゾーン30」※¹を更に整備し、事故発生の危険性が高い道路を改善します。
- ・ 安全で歩きやすいバリアフリー型歩道を整備します。



歩道の整備(万世工区)

イ 食品等の安心・安全の確保

食品、医薬品等について、製造・加工、流通・販売段階における監視指導の充実等を図り、安心・安全の確保に努めます。

- ・ 食品衛生監視員による監視指導時にHACCPに沿った衛生管理の導入を促進します。
- ・ 各種広報媒体や衛生教育等を通じて、食品の衛生管理や科学的知見に基づく正しい知識の普及を図ります。
- ・ 食中毒や食品の自主回収等の情報を速やかに提供し、食品衛生に係る注意喚起を図ります。
- ・ 薬事監視員による事業所等の立入・指導を行います。
- ・ 住民に対し、医薬品等の適正使用について普及啓発を図ります。

(4) 快適な生活環境づくり

ア 人やモノの交流を支える交通ネットワークの形成

主要幹線道路等の整備により、地域の交通ネットワークの形成を推進します。

- ・ かごしま新広域道路交通計画に構想路線として位置づけた薩摩半島横断道路について、地形や沿道の状況、道路構造、整備効果など総合的に勘案し検討します。
- ・ 地域の活性化や産業・観光振興の観点から国道226号をはじめとする管内の国県道の整備を推進します。

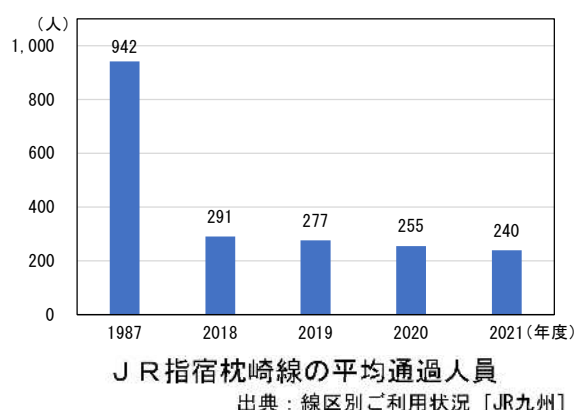
イ JR指宿枕崎線の利用促進

JR指宿枕崎線は、沿線各市の産業振興と地域活性化、地域住民の通勤・通学など日常の生活路線として必要不可欠な路線であることから、路線の維持・活性化を図る取組を推進します。

- ・ 沿線各市、観光協会等と連携した利用促進や、国や事業者に対する要望活動に取り組み、路線の維持・活性化を図ります。

※1…ゾーン30：生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域(ゾーン)を定めて最高速度30キロメートル毎時の速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策

- ・ 地域住民がＪＲ指宿枕崎線の必要性和重要性を再認識し、自らが地域の鉄道を守り育てていく意識の醸成を図ります。
- ・ ＪＲ指宿枕崎線を観光資源として活用する取組を推進します。



ウ 個性豊かで魅力ある景観づくり

地域の特性を生かした個性豊かで魅力ある景観を形成、保全するために、持続的な景観づくり活動を促進します。

- ・ 景観アドバイザーの活用や、地域住民、事業者、まちづくり団体等により、地域が一体となった取組を促進します。

(5) 地域特性を生かした持続可能な地域社会づくり

地域コミュニティ、ＮＰＯなどがそれぞれの役割を最大限に発揮しながら、地域の課題解決に向けた取組を促進します。また、農業が盛んな南薩地域の特性を生かしたグリーン・ツーリズム等による関係人口^{*1}の創出・拡大や移住・交流の促進を図ります。

- ・ 地域コミュニティ、集落支援員、ＮＰＯ、ボランティアなど多様な立場の団体・個人がそれぞれの特性を生かして取り組む主体的かつ持続的な活動を促進します。
- ・ 地域活動に関する情報の提供による「共に取り組む」気運の醸成や、地域活動の担い手となる人材育成及び地域おこし協力隊^{*2}の活用を図ります。
- ・ 生活交通網の維持・確保を図るため、コミュニティバス、デマンド交通^{*3}など地域の実情に合わせた取組を促進します。
- ・ 様々な生活サービスの集約や周辺地域との連携・協力などによる住み慣れた地域で暮らし続けられる地域社会づくりを促進します。
- ・ 地域資源を生かしたワーケーション^{*4}の推進やグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムなどの地域と地域外の住民との交流、連携の取組を推進し、関係人口の創出・拡大を図ります。

*1…関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光にきた「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々

*2…地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員が、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への移住・定着を図る取組

*3…デマンド交通：路線を定めず、旅客の需要に応じた乗合運送を行う運行の形態。主に、ジャンボタクシーなどの車両を使用し、事前に予約して、玄関から玄関への移動を低額運賃で提供する新しい公共交通サービス

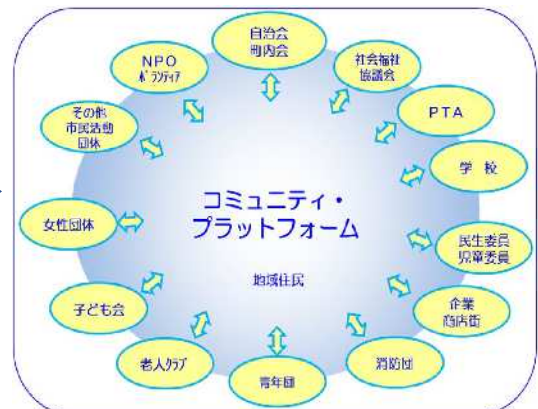
*4…ワーケーション：Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと

- ・ 地域の魅力やニーズに即した情報を発信することにより、移住・交流を促進します。
- ・ 各市やNPO等と連携し、空き家を移住定住や地域の交流施設等に活用する取組を促進します。
- ・ 多様な主体が連携・協力して地域課題の解決等に自主的・持続的に取り組んでいくための基盤となる組織「コミュニティ・プラットフォーム」づくりや、その活動の充実に向けた各市の取組を促進します。

コミュニティ・プラットフォーム



地域の各団体がバラバラに地域活動



コミュニティ・プラットフォームは地域の力を結集する仕組み

第5章 取組方針実現のために

取組方針の実現のための県民、企業、NPO、各市等との連携の考え方や、取組方針の内容を踏まえて実施する具体的な施策・事業等の進め方などについて示します。

1 県民が主役

県政の主役は県民です。

このため、積極的に現場に赴くなどして、県民の意向を十分把握し、県民の目線に立った、県民の声がしっかりと反映される県政を推進します。

また、地域振興の取組を着実に推進するためには、県民の理解と協力が不可欠であるため、SNSなどの活用を通じて県政情報を積極的に発信します。

2 多様な主体との連携・協働

南薩地域の目指す姿を実現するためには、県民をはじめ、企業、関係団体、NPOなどの多様な主体が、南薩地域の目指す姿や施策展開の基本方向を共有し、様々な課題に主体的に取り組んでいく必要があります。

課題の解決に当たっては、多様な主体が、「自助」、「共助」、「公助」を適切に組み合わせ、連携・協働を図りながら進めていくことが重要です。

3 管内4市との連携

行政課題の解決に当たっては、住民に最も身近な基礎自治体である各市との適切な役割分担の下、各市の自主性・自立性を尊重し、連携を図りながら進めていきます。

4 管外の地域との広域連携

観光や大規模災害など地域を越える広域的な課題に適切に対応するため、管外の地域との連携を更に推進します。

5 具体的な施策・事業等の推進

地域振興の取組方針は、南薩地域における施策展開の最も基本となるものであり、南薩地域の目指す姿を実現するため、取組方針に沿って、各分野の事業計画等についても必要に応じ見直しを行います。

この取組方針を踏まえて実施する施策・事業等については、各分野の事業計画等において具体化し、PDCAサイクル^{*1}による成果の検証などにより、適切な管理等を行います。

また、変化を続ける社会経済情勢に的確に対応しながら、弾力的・効果的な施策・事業等を推進します。

6 SDGsの推進

各種施策・事業等の実施に当たっては、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGs（持続可能な開発目標）の理念を県民と共有しながら、経済・社会・環境をめぐる広範な課題解決に統合的に取り組みます。

*1…PDCAサイクル：PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法



南さつま市



南九州市



鹿児島県



枕崎市



指宿市

南薩地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉

2023年3月発行



【仮】



編集・発行 鹿児島県南薩地域振興局

〒897-0031 南さつま市加世田東本町8-13

TEL 0993-52-1307

ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/al01/chiiki/nansatsu/index.html>

表紙の写真：「新たな南薩の魅力」フォトコンテスト(H27)入賞作品

【撮影地】 枕崎市：岩戸町 指宿市：山川町 南さつま市：大浦町 南九州市：知覧町